

# 日本ロールシャッハ学会 第20回大会 ワークショップのご案内

日本ロールシャッハ学会第20回大会では、ワークショップを4コース開催いたします。ロールシャッハ法のシステム、解釈、家族、さらに描画までを含んだ幅広い領域の内容を準備いたしました。たいへん興味深い内容です。ぜひ奮ってご参加ください。

**I. 期日 :** 2016年11月26日(土) 10:00~13:00

**II. 会場 :** 東京国際交流館 〒135-8630 江東区青梅221 <http://www.jasso.go.jp/tiec/plazaheisei.htm>.  
ゆりかもめ「船の科学館駅」東出口より徒歩3分  
りんかい線「東京テレポート駅」B出口より徒歩15分

## III. 定員 :

会場の都合上、30名~100名の定員になります。各コースの参加希望状況により会場の配置を決め、定員になり次第、締め切りとさせていただきます。

## IV. 受講資格・受講費 :

ワークショップへの参加は、大会参加と同様の条件で、心理臨床の専門家に限らせていただきます。会員・非会員の別を問わず受け付けますが、申し込み多数の場合は会員を優先いたします。

受講費は、日本ロールシャッハ学会会員・非会員、院生・学生ともに3000円で、当日参加はありません。

## V. 申込み

### ① 事例提供申し込み

B、C、Dコースは事例提供者を募ります。事例提供を希望される方は、1号通信「IV. 発表及び参加申し込み」をご参照ください。2016年7月31日(日)までに、web登録し、事例概要を提出してください。採否その他につきましては、追って連絡させていただきます。

### ② 参加申し込み

ワークショップへの参加をご希望の方は、web上で、ご希望のコースを第1希望から第4希望までご記入の上、2016年9月30日(金)までにお申し込み下さい。先着順にて受付をいたしますので、なるべくお早めに申し込みくださいますようお願いいたします。申し込みされましたら、2016年9月30日(金)までに諸費用を払い込みください(参加申し込み締め切りと同日です)。払い込み受領確認後、領収書/参加予約証をお送りいたします。

## VI. 連絡先

日本ロールシャッハ学会第20回大会 準備委員会 (代表: 森田美弥子)

メールアドレス [20th\\_anniversary@jsrpm.jp](mailto:20th_anniversary@jsrpm.jp)

大会ホームページ <http://jsrpm20.com>

## Ⅶ. ワークショップ研修内容・講師

### A. 「臨床ケースを用いたロールシャッハ・パフォーマンス・アセスメント・システム (R-PAS) 入門」

University of Toledo Dr. Meyer, G.J.

このワークショップでは、包括システム (CS) のあとに続くものとして開発された R-PAS (Meyer, Viglione, Mihura, Erard, & Erdberg, 2011) を、臨床ケースを通してご紹介します。R-PAS では、アセスメント対象者を理解し、援助するために、信頼性・妥当性や、規準データという経験的なエヴィデンスはもちろんのこと、反応イメージにおける豊かな個性性、継起、そしてテスト行動を重視します。R-PAS は国際性を重んじており、たとえば日本からのデータはその基礎的な研究の一部をなしています。このワークショップでは、多くの時間を R-PAS の視点からのケース理解に費やすことになると思います。しかし、R-PAS がロールシャッハ・ベースのアセスメント法として、CS に改良を加えた5つの重要な点 (検査者による影響の少なさ、反応数による影響の少なさ、より適正な規準データ、妥当性のあるエヴィデンスに基づいたより正確な解釈方略、より容易な解釈方略) に手短に触れるとともに、R-PAS の変数についても簡単に解説する予定です。

### B. 「ロールシャッハ法の力動的解釈を巡って」

中野臨床心理相談室 馬場 禮子先生

ロールシャッハ法には被検者のパーソナリティとその病理に関わる多くの重大な情報が含まれている。それを読み取るには、読む側にパーソナリティやその病理に関する多くの知識が必要であるし、さらにロールシャッハ現象としてそれらがどのように現われるのかに関する知識も必要である。そうした読み取り方や理解の仕方やその纏め方について講義するとともに、一例を使って解釈の手続きを例示したい。

事例を一例募集する。時間が限られているので反応数の多いものは使えないことをお断りしておきたい。

### C. 「描画における解釈的視点と体験的視点-風景構成法とバウムを中心に-」

京都大学 皆藤 章先生

描画作品をどのように理解すればよいのかという点については、これまで幾多の研究が積み重ねられてきたが、いまだ確定的な成果は得られていない。エヴィデンスとして定式化されてはいないのである。このことは、一方で人間のこころの力動性を確信させる。すなわち、解釈によってこころを固定化させても、それが臨床実践に真に意味あるものとはならないことを意味する。また一方では、描画という営為は描き手のこころの表現であるから、エヴィデンスとして定式化するのではない、他の理解の仕方があることを確信させる。本ワークショップでは前者を解釈的視点、後者を体験的視点と呼んで、この二つの視点から事例研究によって描画作品を検討してみたい。それによって、描画という営為の心理臨床学における新たな位置を模索してみたい。参加者から、描画 (風景構成法またはバウム) を用いている事例を募集します。積極的な応募を望んでいます。

### D. 「心理アセスメントによる家族関係理解-投映法を中心としたスーパーヴィジョン-」

京都大学 高橋 靖恵先生

心理療法の導入期において、「見立て」の作業は重要である。とりわけ投映法を中心とした心理アセスメントによって、クライアントの病態水準や、パーソナリティ、家族関係、そして心理療法における治療関係についても理解が可能と考える。演者は、本学会第18回大会において、「ロールシャッハ法と家族関係理解」と題した教育講演を行った。ここでは、そこで講じたロールシャッハ法を中心とした投映法から、いかにして家族関係を理解し、心理療法に適用していくのかについて、実践的検討を行う。家族関係については、そこに焦点づけた技法がある一方で、一般的な実施法による SCT、TAT、ロールシャッハ法や描画法などから、理解が可能である。今回、このようにさまざまな心理臨床現場で一般的に広く活用されている投映法から、検討を進めていきたい。

上記のような目的で投映法を中心とした心理アセスメントの事例をもとにライブスーパーヴィジョンを行うことを考えています。できれば、内的な対象関係や家族関係理解を多角的に検討するため、テストバッテリーが組まれた事例の提供者を募集いたします。